

キアゲハは北海道から屋久島までの分布で、それより南では沖縄で偶発記録があるくらいです。他の *Papilio* 属が食べないセリ科植物を主食とし、野菜畑のニンジン、ミツバ、パセリ、セロリなどを食べます。たまに食卓上のパセリに卵がついていることもあります。無農薬栽培だと安心していいでしょう。山間部ではシシウドなどで発生します。

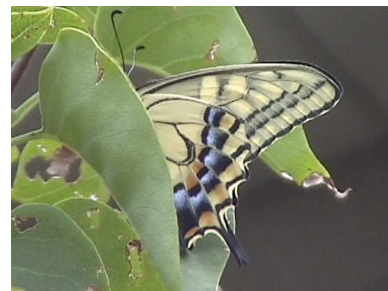
1998年西畑で妻と娘が育てていたハーブ：フェネルがクリーム色の花をつけた頃に求蜜飛来している姿をきれいだと思っていたら、このハーブがキアゲハの食草に適合していたらしく母蝶が次々と見境のない産卵をして、おかげで幼虫は柔らかい葉っぱを



Apr.13, 1999 高砂市西畑自然羽化



すっかり食い尽くしたあと一部は庭の他の場所に植えてあったパセリまでも丸裸とする始末。残る幼虫がどうするのかと観察しているとなんと茎の部分をかじり取るように少しずつ食って、あちこちで自然蛹となり次々ときれいな蝶となって飛び立っていったのには感心しました。数日後、まだ日暮れまでには大分時間があるというのになぜか庭のライラックの葉上に舞い戻り静止する個体が出て、どうしたのかなと Video 撮影をしていたら、やがて天候が急変、嵐を思わせる強い風を伴った雨となってしまいました。ライラックは大きく揺さぶられキアゲハは強い雨風にしばらく耐えていましたがいつのまにか安全な場所へ移動したらしく元の葉上から消えていました。発生場所である我が家の庭に戻ってくれたことをうれしく思う一方で、天候の悪化をいち早く察したキアゲハのすぐれた本能を見せつけられた出来事でもありました。



羽だけの標本図は、昨年8月加古川市で開催された「青少年のための科学の祭典」で、子供たちを対象にフェルアルバムを使う標本作製法を伝授した際のキアゲハの見本です。胴体やアンテナがないのは寂しいですが、ひと目で羽の表裏がみられ、胴体がない分腐る心配がなく専用の高価な標本箱もいらないなど、簡易長期保存法としてお勧めです。子供たちには多種類の見本標本を参考としたアルバム作りをしてもらいましたが、色彩が鮮やかだからでしょうかキアゲハとアオスジアゲハが欲しいという子供が多く、今後こうした企画を継続するとしたら、

相当数の同種標本の確保が必要となり悩むところです。

私は、標本箱空間を余計に占有する大型のアゲハ類のほとんどをこのアルバム形式に切り替えました。アゲハ属紹介には、自然界での撮影記録があまりないこともあって、アルバム標本写真を使うことが多くなります。

*Papilio machaon hippocrates*

